

能登半島地震の概要説明

佐渡市総務部防災課

令和6年1月1日 16時10分、石川県能登地方にて、深さ16km、マグニチュード7.6、最大震度7（石川県輪島市、志賀市）の地震が発生しました。佐渡市でも最大震度5強を観測し、2分後に津波警報が発表されました。（スライド2）

鷺崎観測所では17時39分に30センチの津波が観測されました。気象庁調査では、その後の調査で、羽茂港で約3.8メートルの痕跡高があったと発表されています。（スライド3）

消波ブロックに乗り上げた小型漁船や流出した漁具が、津波の大きさを物語っています。（スライド4）

沿岸部に居住している住民を中心に避難所や高台などに避難し、指定避難所には、24か所で約2,830人が避難しました。その他にも集落近くの高台や神社などに同数程度避難したと聞いております。津波警報は、1月2日 1時15分に津波注意報に切り替えられ、同日の10時に津波注意報も解除となりました。指定避難所も1月2日 12時45分には閉鎖されました。（スライド5、6）

また、地震により断水があり、小木地区575件を中心に市内で676件の断水が発生しました。多くは短期間で解消しましたが、長いところで復旧までに1月5日までかかりました。この間、市役所では、給水車や飲料水の配付で対応しました。（スライド7）

今回の地震では、令和6年7月31現在で、1,187件の被害がありました。建物の被害が一番多く、住宅や納屋などで873件でしたが、多くは瓦のずれや内外壁のひびなど軽微なものに終わりました。（スライド8）ただし、両津港や小木港では液状化の被害も発生しました。（スライド9、10）

今回の地震では全職員が招集され、住民への情報発信や、避難所運営、被害の確認などの対応にあたりました。幸いにも大きな被害はなかったものの、今回の地震を教訓に更に防災対策に努めてまいります。